

大殿

徳川幕府の支援を受けて建てられた創建時の大殿は豪華な一階建ての建物でした。その大きさは京都にある浄土宗の総本山、知恩院の巨大な大殿をしのぐほどでした。残念ながら、元の大殿は 1870 年代に起こった廃仏運動によって明治時代（1868-1912）に焼失しました。建て替えられた大殿は、第二次世界大戦の空襲で破壊されました。現在の鉄筋コンクリートづくりの大殿は、1974 年に比較的シンプルな建築様式で建てられました。

増上寺の本尊である阿弥陀如来の像は大殿の二階に安置されています。浄土宗の信徒はここに来て「南無阿弥陀仏（私は阿弥陀様に帰依します）」と唱えます。これは、仏の名を繰り返し唱えることでどんな人でも悟りを開けるとする「念仏」という慣習です。

本尊の左側に置かれているのは、浄土宗の開祖である法然上人（1133-1212）の像です。法然は上流階級のものだった仏教を一般大衆に広めました。右側には中国の高僧、善導大師（613-681）を祀る祭壇があります。善導大師は法然より何世紀も前に念仏の重要性を説いた人物で、法然は善導大師の残した書物から感銘を受けました。

増上寺の僧侶は毎日 3 回、それぞれ午前 6 時、午前 11 時 30 分、午後 5 時に仏に祈りを捧げる儀式（勤行）を行います。参拝者は日々の勤行に加え、4 月と 12 月に行われる舞楽の奉納など、大殿で開催される特別行事にも参加できます。

大殿の他の階は、地下 1 階が宝物展示室、地下 2 階が檀家 1,600 人のお墓、3 階が道場となっています。